

<様式1>

令和2年度 さいたま市立岩槻小学校 自己評価書

校長 吉野 寿一



1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

学校の教育目標「豊かな心を持ち、自己の能力（よさ）を最大限に発揮できる、心身共に健全な子どもを育成する。」

- (1) 学習指導要領、「さいたま市の学校教育」及び本校の実態を踏まえた教育課程の工夫と実践により、できた喜び・学ぶ楽しさを味わい、自ら学びに向かう児童の育成に努める。  
－「児童生徒の学力・学習状況」「教員の授業にかかわる評価」
- (2) 児童一人ひとりのよさに気付かせ伸ばす、学年・学級経営の充実を図る。  
－「児童生徒の状況」「学校における働き方改革の視点」
- (3) 家庭・地域・関係機関と連携し、地域の教育力を活用する。地域の伝統文化を実感し、郷土を愛する心情を育む教育を推進する。－「学校と保護者、地域住民との連携の状況」
- (4) 健康でたくましい身体と豊かな心を育む教育を推進する。児童の安全・安心とそのため体制整備を推進する。－「各教科の授業の状況」「安全管理の状況」「安全教育の状況」
- (5) 学校いじめ防止基本方針を教職員、児童生徒、保護者、地域の方々へ周知し、いじめゼロをめざし組織的に取り組む。  
－「いじめの防止等の状況」

2 評価結果について 成果（○）と課題（▲）

- (1) ○算数科の研究を継続。「学びのグラデーション」の活用、学習の振り返りの充実を図り、児童が「なにができるようになったかを意識するようになった。また、算数プリントコーナーを児童が進んで活用し、基礎学力の向上に努める姿が見られた。  
▲基礎学力の定着に個人差がみられる。ICTの効果的な活用を図る必要がある。
- (2) ○「パフォーマンス大会」を開催。児童の特技を披露する場を設けることで、自尊感情の高まりがみられた。運営を自分たちで行うことで主体性の高まりも見られた。  
○会議時間や夏季休業中の出勤日の縮減等、教員の心のゆとりや時間を生み出す取組により、児童と落ち着いて向き合う時間の確保ができた。  
▲特別な支援を要する児童への、より組織的な対応が必要である。
- (3) ○コロナ禍ではあるが、人形作りや薬物乱用防止教室等、地域の協力を得ながら授業を進めることができ、大きな成果を得ることができた。  
▲コミュニティスクールの具現化に向け、より一層、地域の教育力を活用した学習が進められるように工夫していく必要がある。
- (4) ○感染症に対する正しい知識を身に付けるため、学校医を招聘して学校保健委員会を開催するなど、児童の健康への意識向上につなげる活動に取り組むことができた。また、保護者や地域の方々の協力を得て、安全な登下校ができた。  
▲新しい生活様式に合わせた学校生活の更なる定着を図る必要がある。
- (5) ○生徒指導委員会を月に1回実施し、きめ細やかな対応ができた。また、緊急時には特別に開催し、速やかに組織的な対応を行った。  
▲コロナ禍の中、様々なストレスを抱えた児童一人ひとりの内面を見極め、個に応じた、適切な相談体制の構築を、今後も推進していく必要がある。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) ICTを効果的に活用した授業の工夫改善を行い、学力向上を目指す。
- (2) パフォーマンス大会を学期に1回行い、子どもたちの主体性をより一層高めていく。
- (3) コミュニティスクールを生かして、地域の教育力を効果的に活用できるようにする。
- (4) 「自分の身は自分で守る」ことができる児童を育むため、安全教育及び保健指導のより一層の充実を図る。
- (5) 生徒指導委員会、教育相談部会等を定期的に行い、児童の情報共有を教職員間で図っていく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。